



里庄町民俗資料館前の'菊桜'

佐藤清明と'菊桜'

1907年、旧制第六高等学校（現岡山大学 / 以下、六高）の大渡忠太郎教授は、校庭に植えられていた珍しい桜を東京帝国大学（現東京大学）で桜の研究をしていた三好学博士に送ります。そして、1916年、三好博士は菊桜と命名し、発表しました。この菊桜は1931年、三好博士によって皇室に献上されています。

菊桜の名称は江戸時代の古書にも見られますが、学术论文に名前が記載されたのはこの菊桜が初めてです。その後、全国で兼六園菊桜や梅護寺数珠掛桜など命名され、現在では30種類ほどの菊桜が栽培品種名として記載されています。

岡山県浅口郡里庄村（現在の里庄町）出身の博物学者、佐藤清明（1905～1998年）は1923年、旧制金光中学校（現在の金光学園高等学校）卒業後、六高生物学教室の助手となり、大渡教授から菊桜の価値や魅力については話を聞いていたことは想像に難くありません。

菊桜の原木は永く六高で育成されていましたが、残念ながら1945年6月29日の岡山空襲で焼失しました。しかし、清明はその前年の1944年、戦禍から守ろうと菊桜の疎開を思い立ち、一枝を郷里である里庄町の生家に接ぎ木していました。六高ゆかりの菊桜（別称は六高菊桜）はその生命をつないだのです。



佐藤清明の生家で接木され高さ4mほどに成長した初代'菊桜'（1952年撮影）



佐藤家の4代目満開の'菊桜' 湯の池を望む

1930年、清明は昭和天皇の天覧に供する目的で実施された岡山県生物採集動員の植物採集において、県下の児童生徒を指導する顧問の一人を務めました。生物学者でもある昭和天皇は美しい菊桜をお気に召し、1931年、順宮厚子内親王が誕生されると菊桜を内親王のお印（御紋章）に選定されました。

1952年、厚子内親王は岡山の池田家に降嫁されます。その翌年の1953年、清明は菊桜の苗木を持参し、厚子さんの新居の前庭に移植しました。また、同年の秋、清明が苦心育成した菊桜の苗木を岡山に行幸された昭和天皇が記念植樹として岡山後樂園にお手植えになりました。この式典に清明は立ち会っています。

昭和という激動の時代を歩む中で、清明にとって菊桜は花の魅力とともに、生涯心に残る桜となりました。

そして、2024年岡山県で開催される「第74回全国植樹祭」で皇后陛下がお手植えなさる樹種3種の1つに菊桜が選ばれました。

佐藤清明と昭和天皇の奇縁



記念植樹された後樂園の'菊桜'



開花した頃の'菊桜'

菊桜育成保存会 佐藤清明資料保存会

〒719-0301 岡山県浅口郡里庄町里見 2621 番地

里庄町立図書館内

TEL:0865-64-6016 FAX:0865-64-6017

E-mail: slnet@slnet.town.satoshio.okayama.jp

佐藤清明顕彰特設サイト



助成 / 公益財団法人 福武教育文化振興財団

菊桜育成保存会

佐藤清明資料保存会